

テーマ

英語と連携する フランス語教授法の構築

適用
分野

フランス語教育、第二言語習得研究、マルチメディア教材開発

研究
名称

英語圏における外国語学習の目的と現状の調査を踏まえ、英語と連携するフランス語教授法の構築

氏名
所属

中村典子 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

英語圏における外国語教育（特にフランス語教育）の目的と現状を調査し、日本語母語話者が長年、学習してきた英語の知識、英語運用能力と連携するような形でのフランス語教授法を構築すると同時に、外国語および日本語において、コード・スイッチングなども交えて「実質的なコミュニケーション能力」の養成を目指す研究。

●研究内容

21世紀における急速なグローバル化の中で、外国語運用能力の向上、積極的に外国語で発言し、ディスカッションする姿勢の養成が大学教育に求められている。そして、観光やオリンピック、万博などで日本を訪れる他国の人々、労働力不足の日本に働きに来る人々と円滑にコミュニケーションを図るため、必要に応じて、英語、日本語、そのほかの言語で適切に対応し、異なる言語文化圏の人々と協調して共生できる若者の育成が急務である。

多民族国家といわれるアメリカ、カナダ、そして、Brexitに揺れるイギリスなど、英語を母語とする英語圏の若者たちが、どのような目的で、どのような方法で外国語（特にフランス語）を学んでいるのか、また、フランス語学習を、大学在学中の留学、将来の仕事とどのように関連させようとしているのか、多民族国家の中でどのように共生の問題を解決しているのかなどを調査している。そして、日本語母語話者の大部分が長年に渡って学習してきた英語の知識、小学校からの早期英語教育により徐々に伸長すると予測させる英語運用能力と連携するフランス語教授法を構築する。言語や文化の異なる人々と意見交換するためには、異文化間能力の養成も射程に入れる必要がある。そして、コミュニケーションにおけるアウトプット面の強化に関しては、フランスの大学入学資格試験バカロレアの口頭試問等で求められる応答の仕方、会議等におけるフランス人の質問の仕方などを参考に、どの言語においても、学習者たちが臆することなく発言できるようにするにはどうしたらよいかを探る。

キーワード

フランス語、英語圏の外国語（第二言語）教育、コード・スイッチング

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 □ 学術調査 □ コメント ■ 共同研究